



散歩代行の求人情報の探し方ですが、検索サイトなどで、「ペットシッター」もしくは「犬 散歩代行」というキーワードで検索すると請け負う会社や求人が出てきます。

■ペットシッターになるには？

この仕事に向いているのは動物好きはもちろんの事、ペットを飼った事がある経験くらいは必要。

ペットの世話とはいえ、命を預かる責任の大きい仕事なので、依頼主や犬猫との信頼関係も重要。

働ける年齢層は学生～年配の主婦の方など幅広く、どちらかというと女性向きですが男性でも可能。

ペットシッターの資格は、アルバイトとして働く分には特にいりませんが、資格があったほうが求人にも有利になるし、依頼主の信頼も得られやすいでしょう。ペットシッター資格の代表的なのは愛玩動物飼養管理士など。

■ペットシッターの仕事を得るには？

全く経験のない人はペットシッターの派遣会社に登録をしたり、求人サイトなどでペットシッターの求人、募集、などしているので、まずはそこで働き経験を積みます。

本格的にこの仕事に就きたい場合は、ペットシッターサービスのフランチャイズ(FC展開)をしている会社がたくさんあるので、その加盟店に登録します。加盟店では経験や資格がなくても研修制度などがあるので、そこで研修など受けます。ただし開業するにはそれなりの開業資金が必要になります。



証券マン から

犬の散歩代行業

山岡誠さん(64) 上



犬の散歩をする山岡誠さん、美知子さん夫妻
＝1月、横浜市

楽しみながら働けるなんて

1月中旬の昼下がり。横浜市の山岡誠さん、美知子さん夫妻(ともに64)は自宅から車を10分ほど走らせ、7年間通うお客様の家に向かった。

「ケビンちゃん、待って浜市の山岡誠さん、美知子さん夫妻(ともに64)は自宅から車を10分ほど走らせ、7年間通うお客様の家に向かった。

犬の散歩をする山岡誠さん、美知子さん夫妻＝1月、横浜市

ケビンの背中を、誠さんがなでてる。散歩から戻るとドッグフードを食べさせ、その日の散歩コースやウンチの回数を目誌に書きこむ。戸締まりを確かめて、ケビンと別れた。車を数分走らせた別の家では、ダックスフントの親子が待っていた。1日に10軒ほどを夫妻で分担して回る。開業して12年半。これまでに350頭の犬を預かってきた。誠さんは「こんな働き方があったなんて」と笑う。誠さんは、40年ほど続けたサラリーマン人生に満足していなかった。大学を卒業後、準大手の証券会社に入社。営業成績を伸ばすために深夜まで働き、休日も得意先を回った。だが、バブルがはじけて証券業は冬の時代に。49歳のとき、会社から「我が社のために身を引いてくれ」と早期退職を求められた。規模の小さい同業に転職したが、正社員としては採用されなかった。「なんだか不完全燃焼だな」。そんな思いを抱えていた頃、デパートで働いていた美知子さんがひよんなことを思いついた。「わたし、犬の散歩を仕事にしようかしら」(牧内昇平)